

# はじめに

これからの社会は、A Iや通信ネットワークをはじめとする急速な技術革新や、グローバル化の一層の進展などにより、大きく変化することが予想されています。次代を担う子どもたちには、こうした社会の変化に主体的に向き合いながら、自らの可能性を発揮し、未来を切り拓く力を身に付けていくことが求められています。

そのような中、現在、小・中学校においては、新学習指導要領の一部実施及び移行措置を展開し、それぞれの完全実施に向けて備えております。

新しい学習指導要領の趣旨を具現化していくためには、学校教育の直接の担い手である教職員の指導力に負うところが大きいと言えます。

当研修センターでは、設立当時から「上川管内の教職員が、3年に1度は講座に参加すること」すなわち「教職員の3分の1の受講」を期待して、毎年研鑽の場を設定してまいりました。自らの資質向上のため、積極的に受講されている皆様には心から敬意を表します。

さて、2019年度の研修事業は、第16次3か年推進計画の2年次として、各教育関係機関からお寄せいただいたアンケート等に基づき、運営方法の改善を図るとともに、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて授業改善を促す研修講座になるように開催要項を策定しました。

第16次推進計画で、特に意を用いたことは次の通りです。

- 教育指導研修の中の「幼保小連携教育」講座を継続し、幼稚園・保育所と小学校との滑らかな接続を図り、学びの連続性を重視すること。
- 教育課題研修では、「今日的な教育課題の解決を図る」を共通テーマに「学校力向上対策」講座を継続し、今年度は「新学習指導要領の実現に向けたカリキュラム・マネジメント」について研修を深めること。
- 教科等指導研修では、校種間の連携を重視するとともに、理論研修とこれに基づく授業研究を分離して開催すること。
- 教科実技研修では全ての講座で授業研究を重視し、「I C T活用」講座でも授業研究を実施して一層の充実を図ること。
- パソコン実技研修では、「タブレットP C講座」を入門と活用に分けて開設するとともに、プログラミング教育や個別課題解決研修など受講者のニーズに応えられる講座を開設し、複数講師による少人数指導で対応すること。
- 即戦力が求められる期限付教員の指導力向上のため、各講座への積極的参加を勧めること。

今年度も、上川管内小中学校の教職員を中心に、北海道教育大学旭川校等の大学、各種教育行政機関、有識者などから幅広く講師をお願いし、受講する皆様方の専門的知識と実践的指導力の向上に寄与できるよう講座内容の充実に努めてまいります。

2000年度から続く「試そう上川の力で、創ろう上川の力で、生かそう上川の力を」を合言葉に、所員一同力を尽くしていく所存です。多くの先生方の受講をお待ち申し上げます。

2019年4月1日

上川教育研修センター

所長 佐藤 保